

市川の地元活動

循環型観光へ結集

「コンソーシアム設立」
 環境にやさしい観光を推進するため、県内各地の観光事業者が連携し、「コンソーシアム」を設立しました。このコンソーシアムは、観光客の利便性を高め、環境に配慮した観光を実現することを目的としています。また、地域活性化を図るための取り組みとして、観光客の誘致や情報発信にも取り組んでいきます。

藤沢 コロナ後視野 21団体連携



顧問として、藤沢市の新たな観光スキームを作り上げてまいります。(神奈川新聞 2022年7月20日)



これからも、県議会での議論の様子、自民党政調会の考えを分かりやすく報告させていただきます。



藤沢の伝統文化「片瀬こま」を多くの皆様に知ってもらうために。



今夏も毎週土曜日はビーチクリーンでした。次世代に豊かな海岸を残すために。



安全・安心な神奈川県を目指します。藤沢市内、特殊詐欺事案が多発しています。お気を付けください。



湘南キャンドルの火入れ。おもてなしの心で頑張ります。



「付添犬」理解を深め、子犬も支援へ県庁訪問
 県庁を訪れ、付添犬の活用について関係者の意見を伺った。

付添犬の更なる理解に向けて取り組んでまいります。(神奈川新聞 2022年7月20日)



地区社体協の会長として、スポーツを通じて地区の親睦を図ります。



市議との連携プレーで「見守り自販機」を設置

市川和広 県議会レポート



令和4年第2回定例会 本会議一般質問 6月23日(木)

自民党県議団トップバッターとして一般質問を行う

市川の提案1

「9月23日の国連が定めた「手話言語の国際デー」を機会に、「国際手話言語デー」のロゴのカラーであるブルーで県庁本庁舎をライトアップしながら、本県においても手話言語について理解の促進を」

市川

「県は「手話言語の国際デー」に合わせ、手話言語をより一層知ってもらうために、県民への周知にどのように取り組んでいくのか、また、聴覚障がいのある子どもたちの手話習得支援(しゅわまる)について、今後、どのように取り組んでいくのか、知事の見解は。」

黒岩知事

「県では、国連が定めた、9月23日の「手話言語の国際デー」を活用して、周知啓発を強化していきます。具体的には、今年度初めて、県庁本庁舎を、国際的な手話普及のシンボルカラーである「青色」でライトアップし、この国際デーと併せて、県内の手話普及推進イベントなどを、県民の皆様に広くPRしていく。また、「しゅわまる」について、乳児と幼児を分けるなど年齢に応じた対応や、対象者を小学生まで広げることなどを、当事者や関係者の意見も伺いながら、検討していく。」



市川の提案2

「医療的ケア児及びその家族が、個々の医療的ケア児の心身の状況等に応じた、適切な支援を受けられるよう、しっかりと県として支援の充実を図るよう求める」

市川

「今後、医療的ケア児及びその家族に対する支援の充実をどのように進めていこうと考えているのか、知事の見解は」

黒岩知事

「今後、今までの取組を通じて、医療的ケア児とその家族が抱える課題などの、より詳細な実態を把握するとともに、市町村とも連携し、共有しながら、必要な施策を検討していく。」

県は、かながわ医療的ケア児支援・情報センターを中心に、医療的ケア児とその家族が、それぞれの状況に応じて、適切な支援を受け、安心して暮らすことのできる地域共生社会の実現に向けて、しっかりと取り組んでいく。」

記事以外に本会議で質問した項目

- 地域療養の神奈川モデルについて
- ケアラー・ヤングケアラー支援について
- コロナ禍における生活困窮者対策について
- 当事者目線の障がい福祉の実現について
- プロスポーツチームと連携したスポーツ振興について
- 都市計画道路横浜藤沢線の整備について

神奈川県議会議員 市川和広 PROFILE

- 昭和46年4月8日 鶴沼神明に生まれる
- 元経済産業大臣(甘利明)秘書
- 湘南台中学校 卒業
- 日本大学藤沢高校 卒業
- 日本大学法学部経営学学科 卒業
- 大和工務リース㈱入社 現大和リース㈱
- 衆議院議員(甘利明)公設第二秘書
- 藤沢市議会議員 2期
- 神奈川県議会議員 2期目

- 会派所属** 自由民主党神奈川県議会議員団
 自由民主党神奈川県議団 政務調査会 副会長
 自由民主党神奈川県支部連合会 副幹事長
 防災警察常任委員会(委員) 予算委員会(副委員長)
- 役職** 神奈川県印刷工業組合湘南小田原支部 顧問 神奈川県海水浴場組合連合会 顧問
 湘南藤沢活性化コンソーシアム推進協議会 顧問 神奈川県洋菓子協会 名誉顧問
 藤沢メダカの学校をつくる会 相談役 藤沢市バドミントン協会 会長
 新林地区社会体育振興協議会 会長 日本大学藤沢高校・中学校同窓会 会長

〒251-0015 神奈川県藤沢市川名2-2-3 第1のいはビル1階
 電話 0466(26)4230 FAX 0466(26)4220
 e-mail ichikawa-kanagawa@soleil.ocn.ne.jp

http://ichikawa-1ch.com
 市川かずひろ 検索



★ 詳しくは、市川かずひろホームページの「6月23日一般質問」をご覧ください

令和4年第1回定例会 予算委員会 3月14日(月)

自民党県議団トップバッターとして総括質疑を行う

令和4年度当初予算案の基本的な 考え方について、知事らに質す

市川の提案1

「税込動向を注視し、慎重な財政運営に努めるとともに、 コロナ対策の貴重な財源である臨時交付金の確保を」

市川 「ウクライナへの軍事侵略は、エネルギーや食料品の供給不足、価格上昇を招くなど、経済への影響に関する様々な報道がなされており、本県経済や税収にも影響を及ぼすのではないかと危惧している。そこで、令和4年度当初予算について質疑するに先立ち、このことについて、どのように考えているのか知事の見解は。」

黒岩知事 「県としては、今後の動向を十分に注視し、税収減に対しては、減収補填債の発行や財政調整基金の活用などにより適切に対応するとともに、経済環境の悪化に伴う様々な事象に対しては、必要な支援策にしっかりと取り組んでいく。」

市川の提案2

「契約のルールを県民の皆様にも分かりやすく説明を」

市川 「コロナ関係で外部に発注した事業の8割が随意契約との報道があった。このように随意契約が多く行われたことにより、結果として価格の競争性や妥当性が損なわれ、実績が高額になった可能性もあるのではないかと懸念する。来年度予算の算定にあたっては、そうした高めの金額を基に積算したことにより、必要以上の予算が計上されているのではないかと心配する。県民の皆様へ丁寧な説明が必要と考えるが会計局長の見解は。」

会計局長 「随意契約、特に一者随契については、県民の皆様から見ると、県が本来執るべきルールによらず、安易に随意契約しているのではないかと、といった疑念を抱かせ、ひいては、県への信頼が失われるといったことにもなりかねません。そこで、今まで、県の内部にしか示していなかった契約関係のルールを公表することにより、県民の皆様にご理解いただくよう努めていく。」



- 記事以外に
予算委員会で
質疑した項目
- コロナ禍における生活困窮者対策(子ども食堂など)について
- 医療的ケア児への支援について
- 脱炭素社会の実現に向けた取組について
- 水防災戦略の着実な推進について



市川の予算委員会の質問が 新聞に取り上げられました



市川の予算委員会の 質問が新聞に取り上 げられました



コロナ事業で随契多発の県 契約ルール公表へ

「随意契約のルールを公表する」として、県は「契約のルールを公表する」として、県民の理解を促す方針だ。...

厚生常任委員長として、 地域の皆様からの声を一つ一つ実現



1 新型コロナウイルス感染症対策、ともに生きる社会かながわの 実現に向けて全力で取り組みました



実績

刻々と状況が変わる中、医療提供体制の確保、自宅、宿泊施設の療養支援体制の強化、周産期コロナの運用体制、感染者の重症化防止の取組み、ワクチン接種の促進、抗原検査キットの配布など、県民の皆様からの声を踏まえ、その取り組みを進めてまいりました。

新型コロナウイルスから回復した患者の転院を受け入れた医療機関への支援金の実施、潜在看護師の再就職支援(奨励金2万円)、ワクチン接種対象年齢となっていない園児や児童等の家庭に抗原検査キットの配布、保育所・幼稚園の従事者・ケアラー・消防士・鍼灸師・手話通訳者などの職種の優先的なワクチン接種、湘南地域における宿泊療養施設の設置など、地域の皆様からの声を一つ一つ実現してまいりました。

2 県議会で可決された意見書5件を 後藤茂之厚生労働大臣に手交

「支援を必要とする大学生等が生活保護を受けることができるよう制度運用の見直し等を求める意見書」、「出産育児一時金の増額を求める意見書」、「国内放送における手話通訳付与等を求める意見書」ほか3意見書について、厚生労働省を訪問し、後藤茂之厚生労働大臣に手交し、国において、意見書にある事項について、しっかりと措置が講じられるよう求めました。



3 委員長として、津久井やまゆり園の追悼式、津久井やまゆり園・芹が谷やまゆり園の開所式に出席。当事者目線の障がい福祉の更なる推進に向けて議論してまいりました



津久井やまゆり園、芹が谷やまゆり園の開所式に出席しました。「障がい者なんて生きていく意味がない」といった極めて間違った考えを持つ男による、あの犯行を断じて許してはなりません。あの事件を風化させることなく、悲しみを力に変え、二度とあのような事件を繰り返すことのないようすることが、我々の使命であり、責任であると考えます。



4 糸満市摩文仁の丘「神奈川の塔」で挙行された、神奈川県南方諸地域の戦没者に対する献花式に、小島健一議長らと参列。戦争体験者の高齢化に伴い、記憶の継承が喫緊の課題となる中、どのように事実を知り、伝えていくのか。慰霊と追悼の在り方を今こそ真剣に考えていかなくてはなりません



神奈川の塔は、南方諸島、フィリピン、ニューギニア、タイ、ビルマ、中国、沖縄など、南方諸地域で戦没された本県関係者40,680人の戦没者を追悼し、永遠の平和を祈念するため、終戦20周年にあたる昭和40年11月26日に国内唯一の激戦区であった沖縄本島摩文仁の丘に建立されました。慰霊碑には、異郷の地で眠る戦没者への追悼を表すため、神奈川県内産出の真鶴の本小松石、西丹沢箒沢の石英閃緑岩が用いられています。